

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	成城大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	セイジョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310103126
	大学等名1(代表大学等) 学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等) 学校種別	私立大学
	科目名	OCA
	学部・研究科等名	社会イノベーション学部
	担当教職員名・役職	久保田 達也准教授、谷治 和文教授
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	18
	受入企業等数	13
	受入企業等名	(株)ドウシシャ、(株)エイチ・アイ・エス、他10社
	産学協議会の整理上の類型 ※令和5年度の取組については必ず2.~5.のいずれかを選択してください。	3.タイプ3(汎用的能力活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	3.海外でのキャリア形成支援活動 6.低学年(大学1年次~2年次程度)を対象としたキャリア形成支援活動 7.高学年(大学3年次~4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 9.大企業・グローバル企業でのキャリア形成支援活動 10.中小企業でのキャリア形成支援活動
	上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	大学での学びを大学外の活動(実社会)と連携させることを目的に、各実習先で営業同行、接客、事務作業等の業務を体験したり、インターン先企業が抱える課題の解決策の提案などに取り組む。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	3.当該キャリア形成支援活動は、専門教育科目として実施している 6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	学部2年生から4年生を対象に、夏季休業期間中の5日間以上の就業体験を組み合わせた学部の専門科目「OCA」として実施している。企業や団体での就業体験を通して、実社会への理解を深め、就職の際にあるいは就職した後に、どのような問題や課題に直面するかを考えることができるようになることを目指す。さらに、学部で展開される専門科目での学びと結びつけ、専門教育とキャリアとの関係性の理解を深めること、専門領域に対する深い問題関心をもたせることを目指す。単位認定については、2単位を付与している。

項目	確認事項	届出内容	
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している	
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容		
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている	
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容		
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他	
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	実習期間中であっても担当教員に相談を取れる体制を構築しており、課題や疑問に対しては教職員が積極的に関与し、問題解決することを継続的に行っている。	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全4回的事前学習の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解(第1回)、キャリアに対する考え方とインターンシップの位置づけ(第2回)、インターンシップ先における態度や話し方、聞き方(第3回)、インターンシップに関するグループワークと習得能力の確認(第4回)を実施している。	
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	全6回的事後学習の中で、成果報告についての説明とインターンシップの振り返り(第1回)、各受講生のプレゼンテーションによるインターンシップの成果の発表と担当教員によるフィードバック、他受講生の発表に対する受講生間のディスカッション(第2回～第6回)を実施している。	
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	実習期間中であっても担当教員に相談を取れる体制を構築しており、課題や疑問に対しては教職員が積極的に関与し、問題解決することを継続的に行っている。	
	要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
		4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み		受け入れ企業の担当者にも複数の項目を使って総合的に評価してもらっている。	
4-3.上記回答内容に関する詳細		学生が実習中につけた記録と実習後に書いた報告書、及び受け入れ担当者の評価票をもとに、学修の深化の程度や自らのキャリアに対する理解の程度を多面的に評価している。成果報告時には、異なるバックグラウンドをもつ複数の教員が、専門教育との関連性や、経験を通して得た知見を学生に問う機会を設けており、これは教育的効果の測定に役立つだけでなく、学生自身がインターンシップの意義を自覚し、将来のキャリア形成を考える機会となっている。	

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	5～19日間(受け入れ先企業による)
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	原則1社としているが、インターン先の条件等により40時間に満たない場合には、2社で就業体験を実施させることとしている。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	夏休みまでの間に各履修生が国内・海外における実習先を確保し、夏休み期間中に5日間40時間以上の就業体験を行う。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	受け入れ企業の担当者が各学生に対して、仕事の計画性・処理能力、自己表現力などさまざまな観点で評価し、それを事後学習や振り返りに役立てている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.seijo.ac.jp/about/syllabus/
問い合わせ先	大学等名	成城大学
	担当部署名	社会イノベーション学部研究事務室
	担当者役職名	主任
	担当者氏名	大熊 恵
	電話番号	03-3482-9764
	メールアドレス	m-okuma@seijo.jp